



なかまだみんな

横浜市立中和田南小学校

電話 802-0979

亡き母の思い出

校長 山崎 薫

今月号に限り、私事の内容になりますが何卒ご容赦ください。実は、去る11日に母を亡くしました。享年90歳でした。悲しい気持ちはもちろんあるのですが、年齢も年齢ですので、「お疲れさま」という気持ちもありました。父の意向で家族葬を執り行いました。僧侶も呼ばず、通夜も、位牌も、戒名もなし。最後は身内5人で送りました。極めて簡素でしたが、これでよかったと思っています。

今回、母のことで印象に残っている思い出をお伝えしたく思います。私が中1の時のできごとです。学校からの配付物の中の一つに「学園NEWS」という題名のプリントがありました。NEWSがニュースであることはすぐわかりそうなものですが、母にはNEWSが読めませんでした。母は昭和7年生まれ。子どもの頃に太平洋戦争がありました。世相は鬼畜米英。敵国語を習うなどご法度。校庭は芋畑になり、食糧増産が子どもの務め。体育の授業は竹やり訓練とよく聞かされました。そのような時代に学齢期を送ったわけですから、読めるわけがないのです。それでも、NEWSが何なのかを無性に知りたかったようで、私の勉強机にある英和辞書を使い、大人になってから辛うじて覚えたアルファベットの順番を頼りに、国語辞典の要領でN、次にEを探していったそうです。NEWSをニュースと読むことがわかるまで半日かかったと言っていました。「学べるということと、そこで知識を得るって大切だよ。」母は学べる機会があることへの感謝の気持ちをもつことと、学問の必要性、そしてそこから広がる可能性の大きさを教えてくれました。また、「知りたい。わかりたい。」という気持ちをもったとき人間は真剣になり、伸びるということ、私も中学生なりに感じました。

このような経験をした母は、後に、私に学校の先生になることを勧めてくれました。教育学部を目指そうという気持ちが私の心の中に芽生えたのもここが原点かと思っています。

この話は、私が学級担任をしていたころに、当時の児童にも何度となく話した記憶があります。今でも校長として、学習する環境づくりを整えることの大切さや、主体的に児童が学習に取り組めるような授業づくりを職員に求めることにつながっていると思います。

月末の授業参観には、感染対策にご協力をいただいたうえで多くの保護者の皆様にお越しいただき有難うございました。子どもたちが張り切って授業に臨んでいる姿を微笑ましく思いました。授業の様子はもとより、壁に貼られた絵や俳句、観察記録などもご覧いただけている方もいらっしゃいました。子どもたちが一生懸命仕上げていた姿が想像していただけたことと思います。作品で飾られた教室で、生き生きと学ぶ姿が日常であるようにこれからも努めてまいります。どうぞよろしく願いいたします。